



佐藤 勝巳
谷合佳代子

ARCHIVES NETWORK

戸田市アーカイブズ・センターの開設

—ひとつの試みとして—

1 国際アーカイブズの日

国際文書館評議会（ICA）は、同会議の発足した1948年6月9日を記念し、毎年6月9日を「国際アーカイブズの日」と定めた。

2009年のこの記念すべき日6月9日に、埼玉県戸田市ではアーカイブズ・センターをオープンさせた。

戸田市は、埼玉県の南部荒川沿いの人口12万余りの小都市である。荒川に架かる戸田橋を渡ると東京都板橋区であり、埼京線の開通（昭和60年）とともに大きく人口が伸び、交通の便のよさから現在は、多くの若い世代が移り住む東京近郊の典型的な住宅都市である。

戸田市のアーカイブズ・センターは、埼京線「戸田駅」から程近い場所に立つ戸田市立郷土博物館内に設置されている。

今回、このアーカイブズ・センターの開設



までの経緯と、市にとっての新たな試みであるセンターについて紹介してみたい。

2 その設立まで

戸田市では1973年から首長部局（総務部）に「市史編纂室」を設置し、市史の編纂を開始した。1974年には、それぞれの分野の専門家を市史編集員に委嘱し、本格的に調査、執筆に取り組んでいる。

最初の市史として「資料編一原始・古代」を1981年に刊行し、その後順次刊行を進め、1987年に最終巻となる「通史編下」を刊行し、全8巻の刊行を終えている。市史の編纂事業としては順調に推移したといっていだらう。しかし、編纂過程では様々な問題点も浮上していた。その中でもっとも大きな問題といえるのは、近代史、現代史の編纂に必要な史料がほとんど市域に残されておらず、特に行政の歩みを証拠付ける史料が皆無に近い状態であったことである。しかし、幸い埼玉県には、「埼玉県立文書館」があり、県域の近代史にかかる行政史料を所蔵しており、当市においてもそのほとんどを、文書館収蔵史料に頼って編纂を進めるという状況であった。

その反省から、市史の最終巻に1章を設けて「戸田市史の編纂と課題」と題し、編纂の歩みと今後の課題についての記述を入れた（当時としては、市史本編にこのような記述を入れた例は少なく、注目を集め、その後県内の市史に同様の記述が見られるようになっていった）。

その中で、「終わりのない市史」として、市

閲覧室



史の編纂事業は、市史の刊行をもって終わるのではなく、市（市域）の歴史はその後も未来永劫続くものであり、これからも日々つくられ、それを編んでいく作業もまた必要になる、と述べ、市史の永続性を謳っている。そして、「市史の編纂という一大事業の成果を全市民の共通財産とするため、そしてつぎの市史の編纂に向けて、つぎの編纂のため、市民の貴重な財産となる史・資料の保存と公開を今後は考えていかねばならない」として、調査・収集した史・資料の「保存・公開」を強調して訴えた。

この具現化を図るべく、すでに1983年に竣工した「図書館・郷土博物館」の中に「文書館」スペースを確保し将来に備えていた。編纂後は文書館としていつでもスタートできる体制は整えていた。

図書館・郷土博物館の開館と同時に「市史編纂室」も同建物に移動し、文書館の開館準備も同時に行うこととして事務を進めていた。

1987年編纂が終了とともに、文書館を発足させる予定でいたが、当時は、文書館に対しての国の財政支援が何らなく、国庫補助の関係で単独で文書館の名称を用いることが出来ず、組織を郷土博物館の中に取り組み、当面は「文書係」として文書館機能を有する郷土博物館という位置づけで出発した。

その後、組織的な変遷はあったが、今まで一貫して、公文書の保存については郷土博物館がその任を担う、という姿勢を貫いてきた。歴代の学芸員が、よくその意義を理解し

図書室



て任に当たってきたといえよう。

そのような中で、今回の公文書管理法の制定や、公文書の管理への関心の高まりなどを追い風として、今回のセンター開設となった。

3 アーカイブズ・センター

戸田市アーカイブズ・センターは、前述のごとく郷土博物館内にあり、組織的にも郷土博物館の一部である。しかし、機能的には分離している。

その役割も「公文書館法」の精神に則り、「地方公共団体は、歴史史料として重要な公文書の保存及び利用に関し、適切な措置を講ずる責務」（同法第3条）を果たすべく公文書の保存活用を念頭に、「戸田市の歴史に関する文書その他の史料の収集、保存及び管理を行うとともに、これらの活用を図る」（戸田市アーカイブズ・センター規則第2条）としている。公文書も歴史史料として保存、活用を行うこととなる。もちろん活用の一面として、閲覧機能も有するが、当面は閲覧よりも、整理を優先して事業を進めて行きたいと考えている。もちろん閲覧者のための設備も整え、開館中（郷土博物館と開館日時は同じ、土曜日・日曜日・祝日も開館）はいつでも閲覧可能である。

今後は、このセンター機能の充実を目指して、事業展開をし、将来は組織的にも独立したものとしていきたいと考えている。

昨今は、図書館や博物館運営が非常に厳しい状況にある。文書館、公文書館についても

厳しい状況が見られる。そのような中で、具体的に、「もの、ひと、かね」がない時に、いかにしたらよいか、様々な方策を考えた末に、ひとつの試みとし、現状を最大限活かす方策として、戸田市においては対外的にも情報発信が出来る組織として、「アーカイブズ・センター」という結論に至った。

この機能分離は、目新しいものではないが、やはり名目として、独自の名称を名乗らなければ組織内に埋没してしまう。当市においても、当初は「係（文書係）」を設けて運用していたが、どうしても対外的な情報発信は弱く、最終的には廃止されてしまった経緯がある。

その反省から、首長などから設置についての議会報告を出来得る施設名が望ましいと考える。今回は予算がらみだったが、設置について市長より市議会に報告を行ない、広く市民に周知すべく、郷土博物館の開館25周年記念事業の中に折込み、市の広報にて市民に周知したところである。

4 ひとつの試みとして

組織内に別の組織を作るという「屋上屋を重ねる」ようなわかりにくい状況となったが、この方法だと敢えて別の建物とか予算がなくても、今ある施設を有効利用して、一部屋をセンターとして立ち上げることが可能となる。

なかなか今の状況では、特に市町村に改めて「新しいもの」を作るのは難しい。ならば、「既存のなか」での機能強化をめざし、更に

対外的にも認知されるようなものを設けることが「文書館・公文書館」への近道のような気がする。

戸田市のこの試み（アーカイブズ・センター）が今後どのようになるか、まずは実績を積み重ね、図書館・博物館・文書館として名実ともに市民の生活の中に浸透させていかねばならないだろう。

〔戸田市立郷土博物館アーカイブズ・センター
佐藤 勝巳〕



収蔵庫